

社会知性開発研究センター

社会知性開発研究センターの各研究プロジェクトは、研究成果を広く公表するため、公開シンポジウムを実施している。今回はソーシャル・ウェルビーイング研究センター、古代東ユーラシア研究センター、アジア産業研究センター(いずれも文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業)の3プロジェクトがシンポジウムを開催した。

3プロジェクトでシンポジウム

新興市場ビジネス入門 国際経営のフロンティア 現場と研究の両面において、それまでのさまざまな常識が転換されつつある。国際経営のフロンティアとしての新興市場ビジネスを学ぶことで、ダイナミックに進化する世界を実感してほしい。大企業が持つ力を発揮するにはどうすればよいかに通じる議論満載である。(中央経済社・本体2300円+税)

ソーシャル・ウェルビーイング研究センター アジア各国からの研究者集う

社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究センター(研究代表 原田博夫 経済学部教授)は、アジア6カ国からゲストを招いてのシンポジウムを6月25日、サテライトキャンパスで開催した。シンポジウムのテーマは「アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイング・アンケート調査を踏まえて」(Social Well-being in Asia: Empirical Evidence and Theoretical Perspectives)。議論はすべて英語で行われた。司会を飯沼健子経済学部教授が担当し、原田博夫研究代表の開会あいさつに続き、各国の報告が行われた。

今回のシンポジウムは、現在アジア各国で進められている幸福感を問うアンケート調査をめぐって行われた。ベトナム、韓国の実地調査結果が報告された。そこから得られた基本的な知見と分析が続いて今後アンケート調査を行う予定のフィリピン、タイ、インド

ネシア、中国の研究者が、幸福感をめぐる実証研究の意義や、幸福感を生み出す政策との関連について、それぞれ研究報告を行った。その後出席者全員が参加してのディスカッションに移り、各国の現状や今後のアンケート調査をめぐっての問題点、研究報告についてコメントするなど、活発な議論がなされた。

次の国際シンポジウムの開催国タイのチュラロンコン大学のチュラchai Win'gaeo教授が「今回のシンポジウムの大きな成果と、バンコクでの再会を楽しみにしている」と閉会あいさつをしてシンポジウムを締めくくった。

登壇した各国の講師は次の通り(日本人研究者の所属はすべて専修大学)。

- ▽原田博夫▽金井雅之▽田中康裕▽Jaevee Yee(ソウル国立大学)
- ▽Hearan Koo(同)
- ▽Be-Sun Kim(同)
- ▽Nghiem Thi Thuy(ベトナム社会科学院)
- ▽Dang Nguyen Anh(同)
- ▽Emma Porio(アテネオ・デ・マニラ大学)
- ▽Surichai Win'gaeo(チュラロンコン大学)
- ▽Paulus Wirutomo(インドネシア大学)
- ▽Iwan Gardono Sudiatmiko(同)
- ▽Yin Yue(上海財経大学)

社会知性開発研究センター/古代東ユーラシア研究センター(研究代表 飯尾秀幸文学部教授)のシンポジウム「古代東ユーラシアにおける『人流』と地域社会」が7月16日、神田キャンパスで開かれた。

ユーラシア大陸の東側全体を視野に、渡来者や経済学部教授らが務めた。200人を超える参加者が熱心に聴講した。

社会知性開発研究センター/アジア産業研究センター(研究代表 小林守商学部教授)の国際シンポジウム「周辺国から見た東南アジア経済発展の実態と課題」が7月23日、神田キャンパスで開かれた。

メコン地域5カ国(ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー)とASEANを中心とした関連周辺地域の市場分析をテーマとするプロジェクトの、4回目のシンポジウム。約40人を前に、日比豪の研究者3氏が異なる視点でASEAN域内の物流やビジネスの現状と課題について講演した。

物流を研究する岩尾詠一郎商学部教授は、昨年度ベトナムで実施した日系企業など101社への



質問に答える原田研究代表

メコン地域の発展 日比豪の視点で

アジア産業研究センター



社会知性開発研究センター/アジア産業研究センター(研究代表 小林守商学部教授)の国際シンポジウム「周辺国から見た東南アジア経済発展の実態と課題」が7月23日、神田キャンパスで開かれた。

メコン地域5カ国(ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー)とASEANを中心とした関連周辺地域の市場分析をテーマとするプロジェクトの、4回目のシンポジウム。約40人を前に、日比豪の研究者3氏が異なる視点でASEAN域内の物流やビジネスの現状と課題について講演した。

物流を研究する岩尾詠一郎商学部教授は、昨年度ベトナムで実施した日系企業など101社への

「原材料を日本から仕入れ、完成した製品を日本で販売する加工貿易が現状では多い」と指摘したほか、現地調査したベトナム、ラオス、カンボジアの物流事情を語った。

国立フィリピン大学附属都市計画・地域計画大学院課程教授のジュン・Tカストロ氏は、ASEAN加盟国の立場から、域内での貿易自由化と市場統合を目指すASEAN経済共同体(AEC)の展望を解説。陸、海、空の交通インフラの

整備計画を英語で紹介し、小林教授が通訳した。一方、豪ジェームズ・ック大学特任教授のマシュー・アレックス氏は経済成長に主軸を置いた論点と一線を画した。九州大学に留学し琉球大学で研究員を務めたこともある同氏は、文化人類学や社会学が専門。ラオスで鉱山開発を行う豪系企業を引き合いに企業の社会的責任に言及し、「外国に進出する企業には、現地の文化を尊重し環境に配慮する責任がある」と日本語で語りかけた。

流通イノベーションの視点から、主要な流通ビジネスの発展を解明している。今日、流通のリーダーとなっているウォルマート、セブンイレブンの成長の源泉を論証。さらに小売業態、物流、ブランドとOEM・EMS、PB商品、小売企業のグローバル展開に焦点を当て、流通イノベーションとの関係を考察している。

メコン地域の発展 日比豪の視点で

社会知性開発研究センター/アジア産業研究センター(研究代表 小林守商学部教授)の国際シンポジウム「周辺国から見た東南アジア経済発展の実態と課題」が7月23日、神田キャンパスで開かれた。

メコン地域5カ国(ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー)とASEANを中心とした関連周辺地域の市場分析をテーマとするプロジェクトの、4回目のシンポジウム。約40人を前に、日比豪の研究者3氏が異なる視点でASEAN域内の物流やビジネスの現状と課題について講演した。

物流を研究する岩尾詠一郎商学部教授は、昨年度ベトナムで実施した日系企業など101社への

「原材料を日本から仕入れ、完成した製品を日本で販売する加工貿易が現状では多い」と指摘したほか、現地調査したベトナム、ラオス、カンボジアの物流事情を語った。

国立フィリピン大学附属都市計画・地域計画大学院課程教授のジュン・Tカストロ氏は、ASEAN加盟国の立場から、域内での貿易自由化と市場統合を目指すASEAN経済共同体(AEC)の展望を解説。陸、海、空の交通インフラの

整備計画を英語で紹介し、小林教授が通訳した。一方、豪ジェームズ・ック大学特任教授のマシュー・アレックス氏は経済成長に主軸を置いた論点と一線を画した。九州大学に留学し琉球大学で研究員を務めたこともある同氏は、文化人類学や社会学が専門。ラオスで鉱山開発を行う豪系企業を引き合いに企業の社会的責任に言及し、「外国に進出する企業には、現地の文化を尊重し環境に配慮する責任がある」と日本語で語りかけた。

古代東ユーラシア研究センター



墓誌研究の意義を語った胡氏

社会知性開発研究センター/古代東ユーラシア研究センター(研究代表 飯尾秀幸文学部教授)のシンポジウム「古代東ユーラシアにおける『人流』と地域社会」が7月16日、神田キャンパスで開かれた。

ユーラシア大陸の東側全体を視野に、渡来者や経済学部教授らが務めた。200人を超える参加者が熱心に聴講した。

故人の氏名や経歴、功績を石などに刻み墓に納めた墓誌は、開発ラッシュの中国で出土が相次ぐ。2004年、中国出張中の故矢野建一学長が西安市の西北大学で遭害使「井真成」の墓誌を偶然発見。その後、西北大学とは共同で研究を重ねるなど、本学との関わり

の意義を語った。陝西師範大学教授の拝根興氏は、高句麗から唐に流入した移民の墓誌を「戦乱で捕虜となった高句麗人も、孫の代になると生活や行動規範は漢人と相違なくなる。唐の開放的で寛容な政策は東アジア各国に波及し、双方向的・多方向的な文化交流の実態を語った。討論では隋・唐時代には望めば庶民でも墓誌を作れたことや、盗掘が多くなったのが、ビジネス分野で目立つようになったのが、ビジネス分野

も同様である。いち早く新興市場の重要性が明らかになり、新興多国籍企業の活躍が目立つようになったのが、ビジネス分野

国際ビジネスにおいて



流通イノベーションの視点から、主要な流通ビジネスの発展を解明している。今日、流通のリーダーとなっているウォルマート、セブンイレブンの成長の源泉を論証。さらに小売業態、物流、ブランドとOEM・EMS、PB商品、小売企業のグローバル展開に焦点を当て、流通イノベーションとの関係を考察している。

本書では流通イノベーションを、日常生活をより便利にするレベルから大きな社会変革まで幅のある捉え方をしており、新たな顧客価値を創造し提供するための取り組みであるとしている。今後、我々の生活やビジネスの発展に、ますます流通イノベーションが不可欠になることも強調したい。流通をより深く研究したい人、買い物や流通業界の新しい動向に関心のある人にもお薦めの一書。(白桃書房・3000円+税)

新しい本

新興市場ビジネス入門 国際経営のフロンティア 現場と研究の両面において、それまでのさまざまな常識が転換されつつある。国際経営のフロンティアとしての新興市場ビジネスを学ぶことで、ダイナミックに進化する世界を実感してほしい。大企業が持つ力を発揮するにはどうすればよいかに通じる議論満載である。(中央経済社・本体2300円+税)